

第4章 参加者アンケート

1 アンケート実施概要

本アンケートは、参加者にワークショップについて率直な意見を伺い、次年度以降のワークショップの開催・運営等に活かすことを目的に実施した。

- ・調査対象 : 「市民自治を考える市民ワークショップ」参加者
- ・配布・回収方法 : ワorkshop当日（令和2年2月22日）に配布・回収
- ・回収数 : 26名

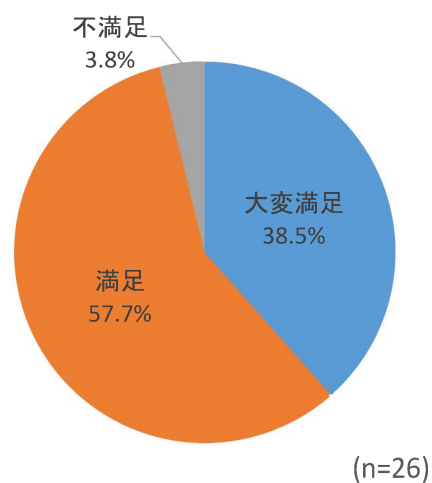
2 アンケートの質問項目と結果

【質問1】「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

（1）参加した感想（ひとつに○）

「大変満足」「満足」が回答の9割を超える結果となった。

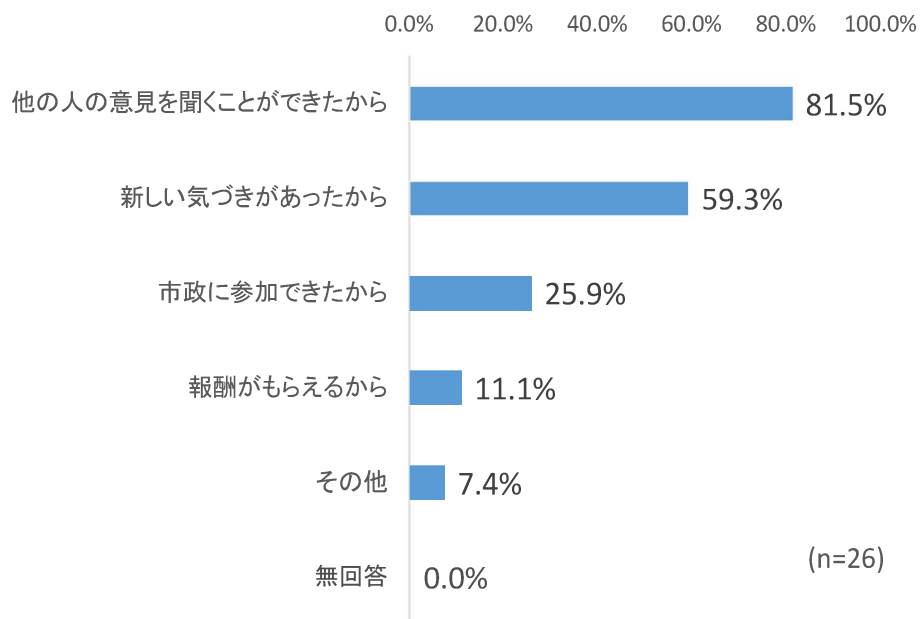
選択肢	回	割合
大変満足	10	38.5%
満足	15	57.7%
不満足	1	3.8%
大変不満足	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



(2) (1) で「①大変満足」「②満足」と回答した理由（複数回答）

「他の人の意見を聞くことができたから」との回答が 22 名と最も多かった。次いで「新しい気づきがあったから」との回答が 16 名であった。

選択肢	回答数	割合
他の人の意見を聞くことができたから	22	81.5%
新しい気づきがあったから	16	59.3%
市政に参加できたから	7	25.9%
報酬がもらえるから	3	11.1%
その他	2	7.4%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



※その他意見の内容

- ・何でも言いやすかった。うまくまとめてくれた。
- ・将来やりたいこと、興味あることとつなげることができたため。

(3)(1)で「③ 不満足」「④ 大変不満足」と回答した理由(複数回答)

「有意義な話し合いができなかったから」との回答が1名、「その他」との回答が1名であった。

選択肢	回答数	割合
思ったより大変だったから	0	0.0%
有意義な話し合いができなかったから	1	50.0%
市政について理解できなかったから	0	0.0%
その他	1	50.0%
無回答	0	0.0%
合計	2	100.0%

※その他意見の内容

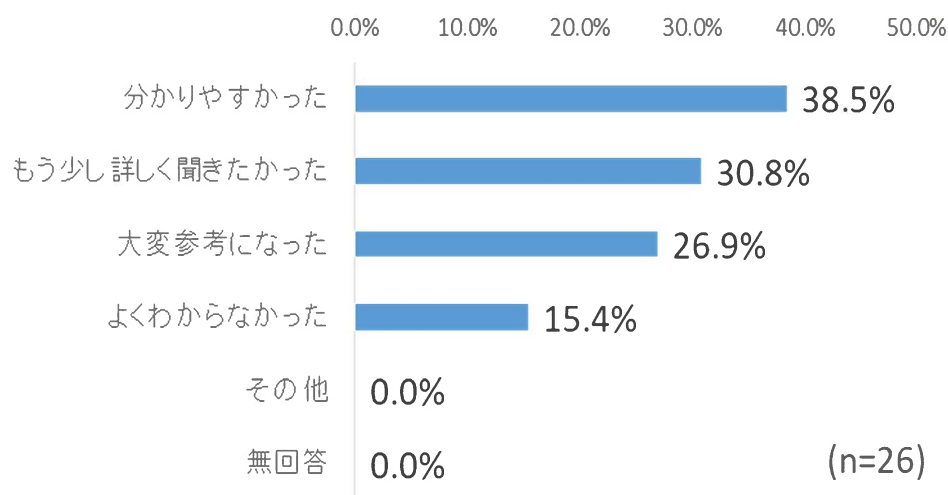
グループの意見が広がりすぎて集約に至らなかった。

【質問 2】 情報提供について

（1）地域コミュニティに関する現状や取組事例、課題の情報提供について（複数回答）

「分かりやすかった」が最も多く 10 件であった。

選択肢	回答数	割合
分かりやすかった	10	38.5%
もう少し詳しく聞きたかった	8	30.8%
大変参考になった	7	26.9%
よくわからなかった	4	15.4%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



（2）（1）で「よくわからなかった」と回答した理由（自由回答）

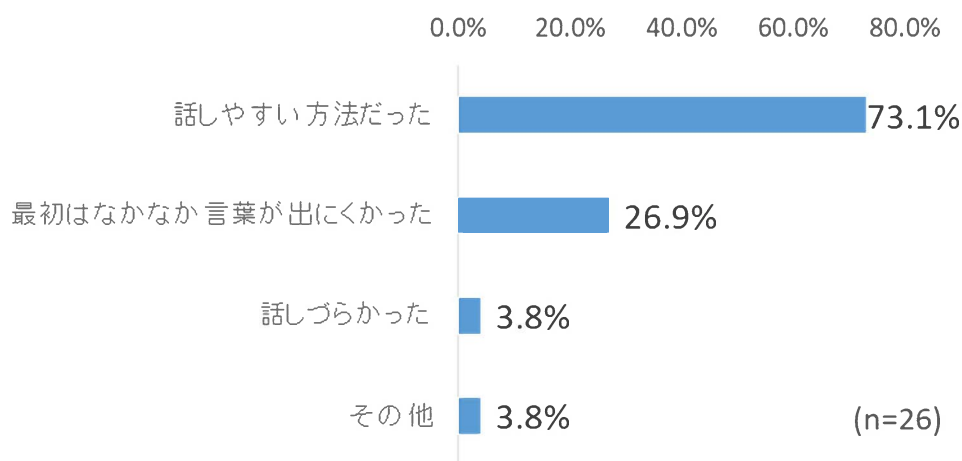
- ・抽象的な言葉が多かった。
- ・意図が良く分からなかった。
- ・そのような実感がない。

【質問 3】 話し合いについて

(1) 話し合いの方法について（複数回答）

「話しやすい方法だった」と回答した人は 7 割以上であった。

選択肢	回答数	割合
話しやすい方法だった	19	73.1%
最初はなかなか言葉が出にくかった	7	26.9%
話しづらかった	1	3.8%
その他	1	3.8%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



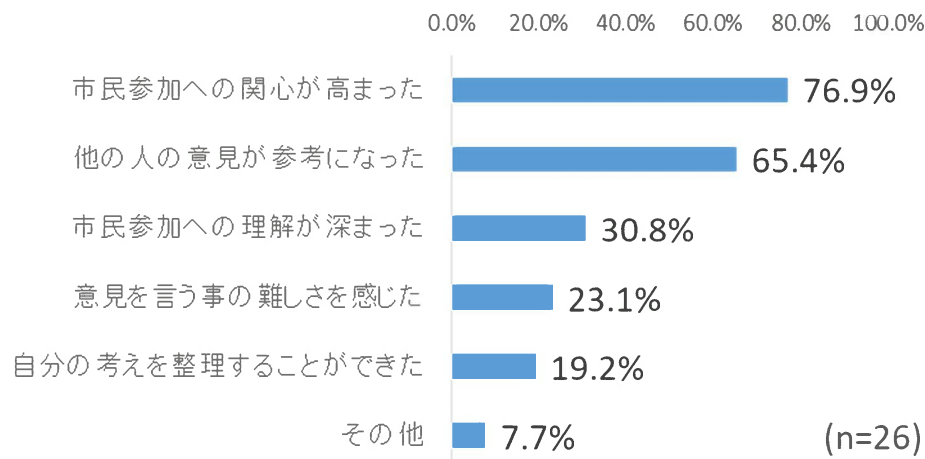
(2) (1) で「話しづらかった」と回答した理由（自由回答）

- ・定められたテーマに従った会合では、定められたテーマ以外の問題についてしか話せない。他の問題について意見できない。
- ・自由な発言が多くなった場合はもう少し場をまとめた方が良い。
- ・意見が広範囲過ぎて主題がぼやけてしまった感がある。

【質問4】参加して得たものについて（複数回答）

「市民参加への関心が高まった」と回答した人は20名、「他の人の意見が参考になった」と回答した人は17名であった。

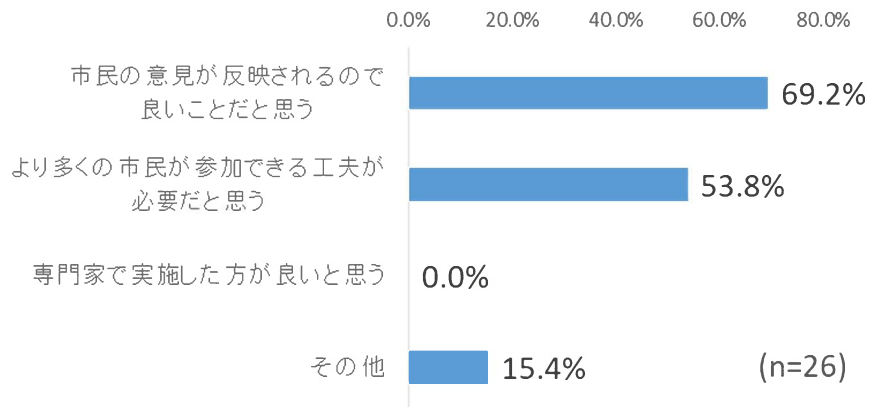
選択肢	回答数	割合
市民参加への関心が高まった	20	76.9%
他の人の意見が参考になった	17	65.4%
市民参加への理解が深まった	8	30.8%
意見を言う事の難しさを感じた	6	23.1%
自分の考えを整理することができた	5	19.2%
その他	0	7.7%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



【質問5】ワークショップの実施について（複数回答）

「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」が最も多く 18 件、次いで「より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う」が 14 件であった。

選択肢	回答数	割合
市民の意見が反映されるので良いことだと思う	18	69.2%
より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う	14	53.8%
専門家で実施した方が良いと思う	0	0.0%
その他	4	15.4%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



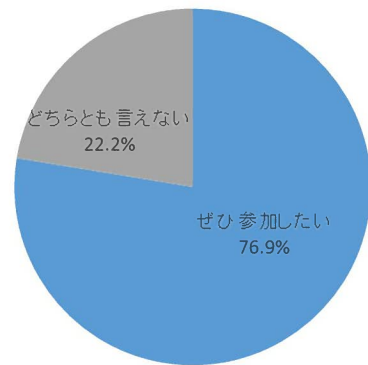
※その他意見の内容

- ・実施することも大事であるけど、反映されていくのか今後に興味がある。
- ・市職員の意見が重要。
- ・市政に参加する当事者の参加が必要かもしれない。
- ・市民の意見を理解した上で専門家の話し合いもする。

【質問6】今後このような取組の参加について（ひとつに○）

今後もこのような取組に「ぜひ参加したい」と約8割の参加者が回答した。

選択肢	回答数	割合
ぜひ参加したい	20	76.9%
どちらとも言えない	6	22.2%
参加したくない	0	0%
わからない	0	0%
その他	0	0%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%



(n=26)

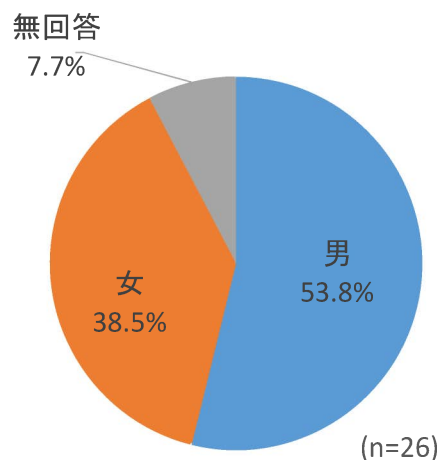
※回答理由

- ・多様な意見に触れることで、今後の判断材料にして活かしたいから。
- ・自分の意見やアイデアが反映される可能性があるため。
- ・自分の意見やアイデアが札幌市の方たちの耳に入っただけでうれしいです。
- ・いろんな方々との意見交換や話し合いの大切さを実感できた。
- ・他の人の意見を聞く事ができ、参考になった。自分の住んでいる地域や札幌市が住みやすいまちになるために考えていきたい。
- ・テーマによるため。また、参加して改めて意義について疑問を持ったため。
- ・興味のある内容であれば参加したい。
- ・自分の興味関心のあるテーマであれば参加したい。
- ・色々な人の考えを聞いてみたいと思いました。
- ・意見交換できるから。
- ・興味のあるテーマなら今後も参加したい。

【質問 7】 回答者さま自身について

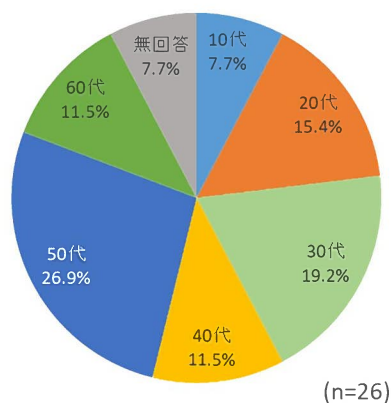
(1) 性別

選択肢	回答数	割合
男	14	53.8%
女	10	38.5%
無回答	2	7.7%
合計	26	100.0%



(2) 年代

選択肢	回答数	割合
10 代	2	7.7%
20 代	4	15.4%
30 代	6	19.2%
40 代	3	11.5%
50 代	7	26.9%
60 代	3	11.5%
70 代	0	0.0%
無回答	2	7.7%
合計	26	100.0%



【質問 8】 自由回答

26 名中 14 名から回答を得られた。内容は以下のとおりである。

- ・各グループの意見の集約、分析、公開を希望する。
- ・ワークショップの参加者の中から各グループで司会、書記、発表者を選出するのかと思ったが、取り仕切ってくださってスムーズな進行になり良かったです。取り仕切る方がグループに入ることを事前に教えて下されれば尚良かったです。
- ・初めてなので、市民ワークショップとはこのような物かと思いました。
- ・様々な意見について、実現されなければ意味がない。
- ・いろんな人の意見が聞けて良かったし、自分では思わないことが年代や性別が違えば悩みになることがある。すべての人が満足する様な生き方や暮らし方は難しい。

- ・テーマを決めて、アイデアを出す場とした方が話しやすかったので、もう少し具体的な内容で市民参加としてはどうでしょうか。
- ・場を持つこと自体には意義があるとは思いますが、もう少し結果が見えると参加のしがいも感じられていいと思いました。
- ・個人的に少しだけ疑問が残るワークショップでした。なんとなくではあるが、全体的に「決まった答え」に誘導されているような感覚があった。
- ・必要性はあることは感じる限りですが、ワークショップとしての参加のあり方に更なる研究や理由付けが求められると思います。
- ・想像していたよりも、楽しく意見交換ができました。時間も3時間は長いと思っていましたが、ちょうど良かったです。
- ・是非、市長の参加を。
- ・ワークショップ全体の意見を集約、札幌市に提供した意見とその反応を後日報告してもらいたい。
- ・様々な世代、職種を交えてワークショップを行うと考え方が広がって良いと思いました。
- ・今日のように無作為で抽出して、参加希望者だけではなく幅広く集めた方が良いのでは？また、どのような意見が反映されたかという結果を教えてもらえると良いのではないかな。

3 参加者アンケート結果のまとめ

(1) 参加者について

今回の市民自治を考える市民ワークショップはテーマへの関心の有無に関係なく、幅広い世代の市民の意見を抽出するため、住民基本台帳から無作為で選ばれた方に参加案内を行い、参加申込をした方の中から抽選の上、参加者を選定するという手法（プランニングセル方式）で実施した。なお、無作為抽出にあたっては、あらかじめ、居住区や性別、年齢層ごとの構成比が札幌市の構成と同じようになるよう考慮して抽出した。

(2) 参加者アンケート結果

1) ワークショップ全体について

ワークショップに参加した満足度については、「大変満足」と「満足」を合わせると9割以上と、満足度が高かった。その理由としては、「他の人の意見を聞く事ができたから」が81.5%と多く、次いで「新しい気づきがあったから」が59.3%であった。

また、話し合いの方法については「話しやすい方法だった」という回答が73.1%、「最初はなかなか言葉が出にくかった」という回答が26.9%と、多くの参加者にとって満足度が高かったものの、今回のようなワークショップ形式での議論に緊張感を感じた参加者もいたことが伺える。

2) 情報提供について

情報提供について、「わかりやすかった」が38.5%と最も多かったが、「もう少し詳しく聞きたかった」という意見も30.8%あった。

3) ワークショップについて

ワークショップを実施することについて、「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」という回答が69.2%と多く、今後の参加意向も76.9%と非常に高かった。多くの参加者が、他の参加者の意見を聞けたことがよかったという感想を持っている。

また、参加して得たものについても、「市民参加への関心が高まった」が76.9%と最も多かったため、このワークショップを通じて、地域コミュニティの活性化へのきっかけにつながったことが伺える。

また、「他の人の意見が参考になった」も65.4%と高かったため、参加者同士の意見交換の時間をしっかりと確保し、参加者全員から均等に意見を引き出すことの必要性を再認識できる結果となった。

第5章 ワークショップの考察

今回の市民ワークショップでは、「なぜ、市民参加が必要なのか（市民参加の必要性）」を共有し「これからの市民参加を考える」をテーマとした議論を行った。

参加者から出された意見をもとに、将来の市民参加のあり方を整理する。

1 市民参加の必要性について

（１）市政レベルの市民参加の必要性

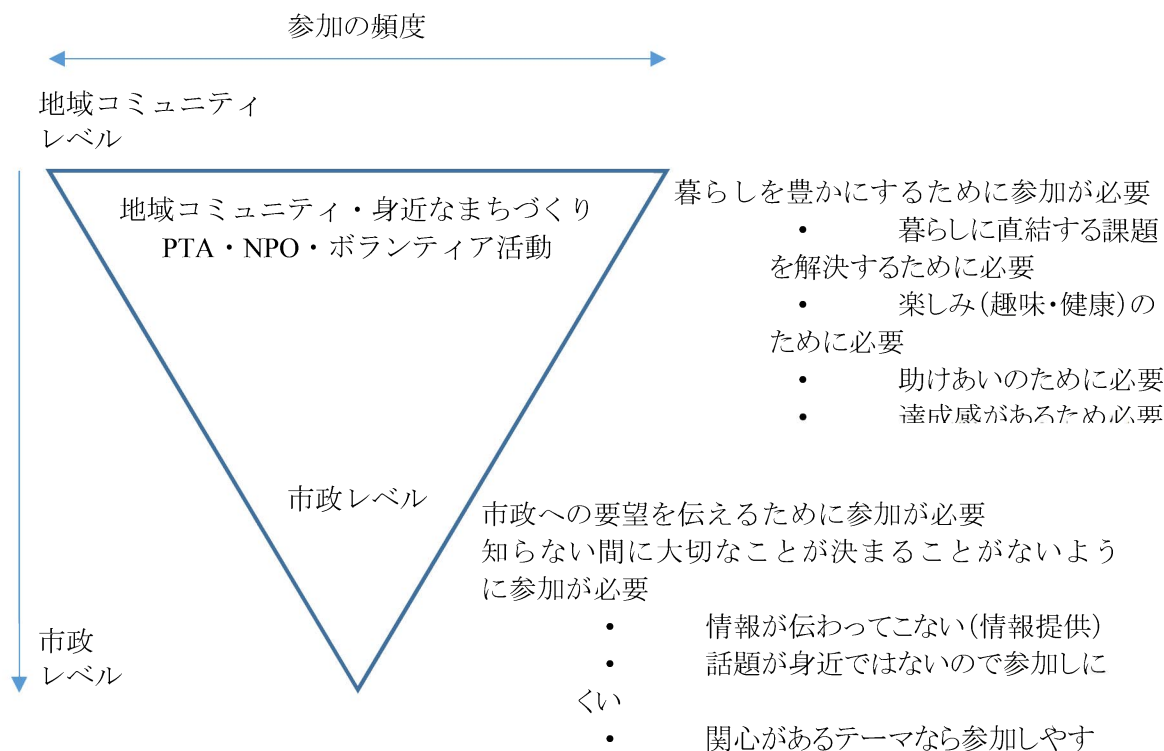
市政レベルの市民参加は、「多様化する市民の市政への要望を把握し、施策に市民の意見を反映させること」や「行政が行う施策を市民に理解してもらう」ために必要であることが共有された。

ただし、市民生活のなかで市政の情報が伝わりづらい、市の施策や計画検討等が身近ではないなどの課題が挙げられた。そのため、市政レベルの市民参加の必要性は共有されたものの、参加頻度は低い現状にあることが把握された。

（２）まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性

まちづくり・地域コミュニティでの市民参加は、「ゴミや除排雪など、自分たちの暮らしを支えていくこと」や「災害時の助けあいなど、地域の課題は地域に住む住民たちで解決すること」が求められるため必要であると共有された。

ただし、地域コミュニティの中心を担っている町内会組織の高齢化や参加のメリットが感じにくいなどの課題が挙げられた。なお、市政レベルの市民参加よりは身近であるため、参加はしやすい状況であることが把握された。



2 将来の市民参加のあり方

（１）市政レベルの市民参加の方法や仕組み

ワークショップから出された意見から、市政レベルでの参加を高めていく方法や仕組みを整理する。将来の市民参加の方法や仕組みには、「情報発信」「参加する機会・仕組み・場」「参加の利点」の創出や工夫が必要だと考えられる。なお、この３点は、まちづくり・地域コミュニティレベルでも共通事項であると考えられる。

「情報発信」では、メディアの活用のほか、市民生活のなかで一般化しているスマートフォンを駆使した SNS（LINE）によって市政や身近なまちづくりの情報を発信し、共有していくことなどが求められている。

「参加する機会・仕組み・場」ではインターネットが普及したことを背景に、直接顔を合わせるコミュニケーションに加えて、インターネット通信を介したリモートワークショップなどの取組が求められる。また、市政のまちづくりを知る機会をツアーとして企画・運営することや、カフェなどの場でワークショップを実施して子どもや海外出身の方の参加を促進することも求められている。

「参加の利点」としては、報酬の仕組みの整備、身近なまちづくりもボランティア活動ではなくポイント制の仕組みを整備などのインセンティブを設けていくことが求められている。

今後は「情報発信」「参加する機会・仕組み・場」「参加の利点」の創出に向けた施策や取組を充実させていくことが考えられる。

■市政レベルにおける将来の市民参加の方法や仕組み

①情報発信

- ・ マスメディアを活用する
- ・ SNS（LINE）を活用する
- ・ 興味を持てるようなテーマを設定する
- ・ インターネットで発信する



②参加する機会・仕組み・場

- ・ Web アンケートの充実
- ・ 関心あるまちづくりのテーマに参加できるようにする
- ・ テーマコミュニティとネットワーク、マッチング、市政ツアーをつくる
- ・ テーマ・年代別のワークショップを開催する
- ・ リモートワークショップによる市民参加の機会をつくる
- ・ 気軽に参加できる機会・仕組みをつくる
- ・ 子どもの市民参加を促す
- ・ 夜・カフェで気軽に参加できるようにする
- ・ 外国人にも参加してもらう



③参加の利点

- ・ 報酬の仕組みを整備する

- ・ ポイント制度・ボランティアポイントの仕組みを整備する

（２）まちづくり・地域コミュニティレベルの市民参加の方法や仕組み

ワークショップの意見から、まちづくり・地域コミュニティレベルでの参加を高めていく方法や仕組みを整理する。まちづくり・地域コミュニティレベルにおいては、身近な社会課題を解決する観点に立って、多様な主体が連携した「コミュニティマネジメント（エリアマネジメント）」を進めていくことが考えられる。

特に、ワークショップの意見のなかで、少子高齢化、人口減少に伴い、町内会などのある単独の主体だけで地域のまちづくりを進めていくことは難しい状況にあることが把握されている。このため、まちづくり・地域コミュニティレベルでは、「参加する機会・仕組み・場」に分類される「コミュニティマネジメント（エリアマネジメント）」が大切になると考えられる。

■まちづくり・地域コミュニティレベルにおける将来の市民参加の方法や仕組み

①情報発信

- ・ 町内会に加入していない人にも情報を伝えるための回覧板も必要である

②参加する機会・仕組み・場

- ・ 区レベルぐらいの方が身近に感じることができる
- ・ 地域コミュニティは直接顔を合わせる（Face to Face）が基本である
- ・ カフェなど気軽に立ち寄れるコミュニティのたまり場が必要である
- ・ 地域コミュニティの課題を解決するために町内会を含めた多様な主体によるコミュニティマネジメント（エリアマネジメント）を行う

③参加の利点

- ・ コミュニティ人材バンクなど登録制度を設ける
- ・ 地域で資源を共有（シェア）する仕組みをつくる

